

## 編集後記

年報『真宗文化』第三十号をお届けします。

令和二年度は、本学園の創立八〇周年、真宗文化研究所も設立三〇周年の節目を迎える年でした。しかしながら、今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言の発令からスタートしました。大学もオンライン授業を余儀なくされ、学生たちに会えないまま新学期は始まりました。一年近く経過した現在（令和三年二月）も、京都府には二度目の緊急事態宣言が発令されています。

私たちの生活スタイルを根本から変えさせた新型コロナウイルスの影響で、真宗文化研究所の主要行事である「光華講座」「聖蹟巡拝」も、残念なことに今年度は中止となりました。

そのような中、後期の聖典読書会は、郵送による通信読書会という形で開催させていただきました。このような状況に

対応して読書会を続けてくださったご講師の渡邊愛子先生、誠にありがとうございます。ありがとうございました。

本号には、今年度の委嘱研究員である金澤豊氏・澤崎瑞央氏の論文に加え、特別研究員の稲葉維摩氏、それから、中西麻一子氏・谷口愛沙氏の論文を掲載しております。コロナ禍にあつても、怠ることなく、黙々と自らの課題と向き合い、生み出された研究の成果です。若手研究者たちの力作をご高覧ください。

もとの世界に戻ることを望む声が多く聞かれます。しかしながら、もうコロナ前の社会が完全に取り戻されることはないのだと感じます。むしろ今は、コロナ前の価値観や思考を見直すべきときなのでしょう。一方、アフターコロナの社会において、本学園が掲げてきた「光華の心」、他者の立場を想像し、他者を思いやる心は、さらに必要とされるものです。その心について世の中に発信していくことが、当研究所に課せられた使命だと思っております。

この令和三年三月をもって、真宗文化研究所事務室長であった真東徳博が退職いたします。寂しさを感じる春ですが、新年度からは新しい体制で、引き続き建学の精神を具現化すべく、怠ることなく歩んでいきたいと思えます。どうか今後とも変わらぬご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

(FO)

## 真宗文化 第三十号

令和三年三月一日 発行

京都光華女子大学  
発行 真宗文化研究所

所長 小澤 千晶

京都市右京区西京極葛野町三八  
電話 〇七五(三)五三三(直)

E-mail skk@mail.kokac.jp  
URL http://www.kokac.jp

印刷 協和印刷株式会社